

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
施策	①しまくとぅばの保存・普及・継承			
(施策の小項目)	—			
主な取組	しまくとぅば普及継承事業	実施計画 記載頁	47	
対応する 主な課題	○沖縄各地域で世代を超えて受け継がれてきた言葉であり、沖縄文化の基層となっている「しまくとぅば」を次世代へ継承することは極めて重要であるが、その語り手が徐々に少なくなっており、しまくとぅばが消滅の危機にある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	しまくとぅばの効果的な普及推進の方策等について、有識者の議論・検討の実施。 在野も含めた研究者や活動団体等の連携を密にするためのネットワークの構築。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	しまくとぅばの効果的な普及推進の方策等について有識者等による議論・検討を実施					→	県
	研究者や活動団体等関係者のネットワークを構築						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位：千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
しまくとぅば県民運動推進事業	19,442	17,670	有識者13人からなる「しまくとぅば普及推進専門部会」を設置(4月)し、普及推進計画等について議論・検討を行った。 平成25年9月18日に文化団体等を集めた「しまくとぅば県民大会」を開催し、約580人が参加した。	県単等
活動指標名			計画値	実績値
しまくとぅば普及推進専門部会の開催			—	4回
—			—	—
推進状況	平成25年度取組の効果			
順調	「しまくとぅば」普及継承を目的とした「しまくとぅば普及推進専門部会」を4月に設置し、今後10カ年の行動指針を記した「しまくとぅば普及推進計画」を策定した。また、「しまくとぅば」普及推進において、文化団体等とのネットワークを構築した。			

(2) 今年度の活動計画

(単位：千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
しまくとぅば普及継承事業	26,462	第2回しまくとぅば県民大会開催(9月予定) 第20回「しまくとぅば語やびら大会」開催 等	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成25年度に県民意識調査を行い、実態を把握するとともに、しまくとぅば普及推進専門部会を設置し、県民に「しまくとぅば」を効果的、効率的に普及できる方法等を盛り込んだ10カ年計画の「しまくとぅば」普及推進計画を策定した。また、前期普及推進行動計画として、平成27年度までは、県民に「しまくとぅば」に親しみをもたせると設定しており、あまり「しまくとぅば」に関心がなかった県民にも、県民大会(9月)等を面白、楽しく開催することによって、「しまくとぅば」に親しみを持ってもらい普及を図ることが出来ている。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
しまくとぅば体験イベント等参加者(累計)	1,992人(23年度)	4,873人(25年度)	16,500人(28年度)	2,881人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	今後10カ年の行動指針を記した「しまくとぅば」普及推進計画に基づき、地域ごとで異なる「しまくとぅば」の多様性を尊重し、県内各市町村と連携を図りながら、全県的かつ横断的な県民運動を展開しているところ。 また、「しまくとぅば」関連イベント等を面白、楽しくすることで、参加者数も順調に増えてきている。今後もイベント等を開催し、県民に「しまくとぅば」を効果的に普及していく。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

・平成25年度、県が初めて実施した「しまくとぅば」県民意識調査結果において、県民全体の8割が「しまくとぅば」に親しみを持っている反面、「しまくとぅば」を主に使う割合が1割で、特に若年層ほどその傾向は顕著になっていることから、有識者からなる普及推進専門部会の意見等も踏まえ、各種団体等の役割をより具体的に示した前期普及推進行動計画を策定し、効果的に普及推進を図っているところである。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・県民意識調査の結果でも「しまくとぅば」使用能力の低下が浮き彫りとなっているため、「しまくとぅば」50音表や読本等のグッズ、県民大会の開催を通して、県民に「しまくとぅば」に親しみをもたせ、目にする機会、耳に触れさせる機会を増やす必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・現在、実施している事業効果等を検証・改善する必要があるため、「しまくとぅば」の県民意識調査を3年ごとに実施し、有識者からなる普及推進専門部会の意見を踏まえた上で事業を改善していき、県民に「しまくとぅば」の効果的な普及、継承を推進していく。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
施策	①しまくとぅばの保存・普及・継承			
(施策の小項目)	—			
主な取組	しまくとぅば体験機会の創出	実施計画 記載頁	47	
対応する 主な課題	○沖縄各地域で世代を超えて受け継がれてきた言葉であり、沖縄文化の基層となっている「しまくとぅば」を次世代へ継承することは極めて重要であるが、その語り手が徐々に少なくなっており、しまくとぅばが消滅の危機にある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	しまくとぅば県民大会の開催(9月) しまくとぅば語やびら大会の開催(9月) 児童にしまくとぅばによる読み聞かせ(年5回) 等						
年度別計画	24	25	26	27	28	29~	実施主体
			しまくとぅばに関するイベント等の開催 「しまくとぅば語やびら大会」(沖縄県文化協会主催)の 開催支援			→	文化協会 NPO法人等
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位: 千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
しまくとぅば県民運動推進事業	19,442	17,670	しまくとぅば県民大会の開催(県の取組、優良事例紹介、お笑い劇団ショー等)し、580人が参加した。(平成25年9月18日) しまくとぅば語やびら大会を開催し、800人が参加した。(平成25年9月14日)	県単等
活動指標名			計画値	実績値
しまくとぅばに関するイベント等の開催			—	年1回
しまくとぅば語やびら大会の開催 等			—	年1回(19回目)
推進状況	平成25年度取組の効果			
順調	「しまくとぅば」県民運動推進事業の一環として、県民大会や語やびら大会等を年1回開催し、県民に「しまくとぅば」に親しめるように普及ソングやお笑い劇団ショーを行い、効果的な普及に繋がった。			

(2) 今年度の活動計画

(単位：千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
しまくとぅば普及継承事業	26,462	「しまくとぅば」読本(3万6千部)作成して、県内の全小学校5年生、中学校2年生に配布して、目に触れる機会を増やす。 第2回しまくとぅば県民大会開催(9月予定)を開催し、県民に「しまくとぅば」に親しみをもってもらおう。等	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成25年度に県民意識調査を行い、実態を把握するとともに、しまくとぅば普及推進専門部会を設置し、10カ年計画の「しまくとぅば」普及推進計画を策定した。また、普及推進計画の基、「しまくとぅば」に目に触れたり、耳にする機会を増やすため、県民大会のイベント等を開催し、県民に効果的な普及を図った。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
しまくとぅば体験イベント等参加者(累計)	1,992人(23年度)	4,873人(25年度)	16,500人(28年度)	2,881人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	第1回「しまくとぅば」県民大会大会に約580人、「しまくとぅば」語やびら大会に延べ800人が参加した。平成25年度には、しまくとぅば体験イベント等参加者の累計は4,873人となり、改善幅は2,881人となったことから、成果指標の達成に寄与しているといえる。したがって、H28目標値の16,500人は達成できる見込みである。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

・「しまくとぅば」は、各地域で異なることから、「しまくとぅば」の多様性を尊重し、各地域の「しまくとぅば」を掲載した読本の作成を行う。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・読本を作成するにあたり、「しまくとぅば」は各地域で異なることから、その地域での表記、話し方などを有識者等で監修を行う必要がある。また、普及推進計画は、3年ごとに前期、中期、後期と分けられており、その事業効果を検証するために、「しまくとぅば」の県民意識などについて、3年毎の調査を実施し、その結果を有識者等で構成する専門部会の意見も踏まえ、事業に反映していく。

4 取組の改善案(Action)

・「しまくとぅば普及推進計画」の基、前期は「しまくとぅば」を目に触れる機会・耳に出来る機会を増やすグッズ作成やお笑い劇団ショー等の「しまくとぅば県民大会」開催など面白、楽しくすることで、県民に「しまくとぅば」に親しみを持たせ、効果的に普及する。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
施策	①しまくとぅばの保存・普及・継承			
(施策の小項目)	—			
主な取組	沖縄文化活性化・創造発信支援事業	実施計画 記載頁	48	
対応する 主な課題	○沖縄各地域で世代を越えて受け継がれてきた言葉であり、沖縄文化の基層となっている「しまくとぅば」を次世代へ継承することは極めて重要であるが、その語り手が徐々に少なくなっており、しまくとぅばが消滅の危機にある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	県内の団体等が行う、文化資源を活用した取り組みやアートマネジメントを含む広く沖縄文化の継承者の育成などに対する費用を補助する。加えて、PDCAサイクルによる事業評価システムを導入し、補助事業の成果の充実及び効果的な支援をし、「沖縄版アーツカウンシル」のあるべき姿を構築する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	1件以上 助成件数	1件以上	1件以上	2件以上	2件以上		企業 NPO法人等
	しまくとぅばの保存・普及・継承に関する事業を支援						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄文化活性化・創造発信支援事業	233,058	188,357	しまくとぅばを身近に感じ、知ってもらおうよう沖縄芝居を通して、講演を行い、また幼稚園児には紙芝居を活用してワークショップ公演を5回実施した。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
しまくとぅばの保存・普及・継承に関する事業を支援			1件	1件
推進状況	平成25年度取組の効果			
順調	一般社団法人沖縄俳優協会の沖縄芝居再生・普及プロジェクト事業を支援することで計画値1件達成することができた。同事業では字幕表示を採用するなどしまくとぅばのわからない客層にも目を向けた取り組みを行い、肯定的な感想、意見が多数聞かれ、しまくとぅばへの意識にも変化が見られた。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄文化活性化・創造発信支援事業	188,458	県内の団体等が行う、文化資源を活用した取り組みやアートマネジメントを含む広く沖縄文化の継承者の育成など1件以上、補助する。	一括交付金 (ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

各事業者の事務処理能力の格差を改善するため、応募前に事前説明会を行い、事務手続き、事業執行上の注意点など周知を図り、円滑な執行に努めた。
採択・不採択の基準の明確化について、事前説明会や募集要項において具体例を掲載し周知を図り、不採択となった事業者へはその理由、原因並びに事業化につながる助言指導を引き続き行った。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
しまくとぅば体験イベント等参加者数(累計)	1,992人(23年度)	4,873人(25年度)	16,500人	2,881人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	沖縄芝居の地方公演(八重瀬町、西原町など)、保育園(9園)でのワークショップ及び後継者育成講座を開催し、チラシの折り込みや宣伝カーさらには地元俳優協会員による宣伝告知活動を行うことで、しまくとぅばに接する機会が増え、理解も徐々に深まり、イベント参加者数の増加につながった。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- ・採択事業者の執行において当初予定した講師陣の変更や雇用予定事務員数の減等があり、十分執行できなかったため、採択後も可能な限り連携とれるよう努める必要がある。
- ・しまくとぅばの普及啓発については、若年層へ働きかけを進める必要がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・現在の実施スキームについては引き続き継続するが、文化関係団体への助言、指導を事業提案前から関わり、事業計画書の記載の仕方や採択される上でのポイントなど指導し、事業採択の審査終了後も丁寧にフォローし、適切な事業積算、執行に努め、事業者の掘り起こしを図る。

4 取組の改善案(Action)

・応募から事業執行まで文化関係団体へ助言、指導をこまめに行う。事業提案前は事業計画書の記載方法や採択される上でのポイントなど指導し、不採択となったあとも次年度につながるよう事業の考え方、取り組み方法を助言指導し、事業者の掘り起こしを図る。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
施策	②伝統行事の伝承・復元			
(施策の小項目)	—			
主な取組	地域の伝統文化継承支援事業	実施計画 記載頁	48	
対応する 主な課題	○各地域、各島々に伝わる祭事等の伝統行事をはじめ伝統的な生活文化が徐々に失われつつあり、沖縄文化が体感できる環境は徐々に薄れてきている。特に、離島や過疎地域においては、人口の減少に伴い祭りの簡素化や後継者不足などが課題となっている。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	県内各地で実施されている伝統芸能、伝統行事等の調査・情報収集を行い、本県の文化・地域振興に図るためなどに活用する。文化年鑑の作成については類似の冊子との差別化を調整しつつ、作成を検討する。また、各地域の伝統行事・芸能等をテーマに文化講演(シンポジウム等)を開催する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	伝統芸能等のデータベース情報収集・作成			—	—	—	県 文化振興 会
	沖縄県文化年鑑の作成(各年度)						
	文化講演の実施						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
地域の伝統文化継承支援事業	8,000	7,839	県内各地域で実施されている伝統行事、伝統芸能、しまくとぅばの取組等の情報収集を行った。文化講演としてシンポジウムを4回実施し、計306名の来場者があった。 各地域における伝統行事の年間の実施日等をまとめ、データベースの基礎となる報告書を作成した。 年鑑の作成については、類似の冊子との差別化を検討した。	県単等
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—
推進状況	平成25年度取組の効果			
順調	国指定文化財、県指定文化財、市町村指定文化財の調査を行い、行事等の実施状況を報告書にとりまとめたことにより、未来につながる情報の蓄積が図られた。 離島を含む県内4地域(嘉手納町、石垣市、南城市、本部町)でその地域の伝統行事や伝統芸能をテーマに文化講演(シンポジウム)を行い、地域の伝統行事等の発信及び活性化を図った。 以上の取組により、自らの地域の伝統文化等の情報共有や大切さを再発見することができたと考えられ、順調である。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
地域の伝統文化継承支援事業	7,779	県内各地で実施されている伝統芸能、伝統行事、しまくとぅばの取り組み等の情報収集を行い、その中から選定した伝統芸能等を国立劇場おきなわで公演する。併せて、地域文化の公演や伝統芸能に関するシンポジウムも行う(4回開催予定)。	県単等

(3) これまでの改善案の反映状況

伝統芸能、伝統行事等の調査において、観光客等にも実施時期が分かるよう、開催予定日・時期をできるだけ調査した(全体の86パーセントを調査)。
 平成25年度は、これまで調査した伝統行事などを集めて、9月に国立劇場おきなわで舞台公演を行い、各地域の伝統芸能の活性化を図った。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
講座の参加者数等	165名 (24年度)	306名 (25年度)	—	↗	—
状況説明	地域の伝統芸能の情報収集だけでなく、公演の場を設けたり、地域ごとの特色あるシンポジウムを開催し、地域の方を中心に306名の参加者を集めるなど、情報発信も行い、地域の伝統行事などの掘り起こしを行うことで、各地域の文化資源に光をあてていく。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- ・各地域の住民が、自らの地域の伝統行事・伝統芸能の重要性や価値を共有できていない。
- ・伝統芸能、伝統行事等の調査・情報収集を行う上で、地域とのネットワークをどう形成するか。
- ・文化年鑑を作成する上では、類似の冊子との差別化をどう図るのか。
- ・シンポジウムの開催にあたっては、集客(広報)をどうするのか。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・各地域の住民に自らの地域の伝統行事・伝統芸能の再発見をしてもらうため、情報発信の方法を工夫する。
- ・市町村文化協会との連携を密にし、情報収集を図る。
- ・文化年鑑については類似の冊子との統合も踏まえ、検討する必要がある。
- ・シンポジウムの開催にあたっては、わかりやすい名称への変更が考えられる。

4 取組の改善案(Action)

- ・各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムを開催する。
- ・シンポジウムの名称を、各地域を巡る、という意味の「サーキット」から「シマdeシンポジウム」に変更し、集客を強化する。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
施策	③文化財の適切な保存			
(施策の小項目)	○埋蔵文化財の発掘調査、戦災文化財の復元、在外文化財の調査・返還			
主な取組	沖縄遺産のブランド開発・発信事業	実施計画 記載頁	49	
対応する 主な課題	○「琉球王国のグスク及び関連遺産群」をはじめ、沖縄の先人たちの英知が刻まれた貴重な文化財を適切に保護し、後世に引き継いでいくことが重要な課題である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	文化財の適切な保存を目的に、県立博物館・美術館による旧石器人遺跡等の埋蔵文化財の発掘調査を実施する。また、出土品・遺跡等の展示・公開をし、観光産業に利活用する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	県立博物館・美術館による旧石器人遺跡の発掘調査					→	県
	出土品・遺跡等の展示・公開および観光への利活用等						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄遺産のブランド開発・発信事業	25,513	20,266	県立博物館・美術館による沖縄遺産の目玉となる更新世人骨の発掘調査および調査研究(本島南部)	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
県立博物館・美術館による更新世人類遺跡発掘調査の実施			—	1件
推進状況	平成25年度取組の効果			
やや遅れ	成果に関する情報管理の徹底を図ったうえで、に南城市サキタリ洞遺跡において発掘調査を実施し、旧石器時代の地層中から30点以上の遺物を回収し、出土品についての調査研究を実施した。さらに調査成果を県立博物館・美術館において公開企画展(入場者数2,912名)および講演会(参加者114名)を開催した。なお、25年度に発掘を終える計画であったが、想定よりも多くの発見があり、次年度も行うこととしたため、やや遅れとなった。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄遺産のブランド開発・発信事業	22,962	沖縄遺産の目玉となる更新世人骨の発見を目的として、沖縄島南部において発掘調査および調査研究を実施するとともに、出土品・遺跡等の展示・公開および観光への利活用を行う。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

成果に関して、拙速な公表は誤認や不正確な情報発信につながるため、慎重かつ正確な情報発信が必要であり、成果に関する情報管理を徹底した。具体的には、調査研究に関して外部の専門家による検討会議を開催し、調査・研究の妥当性について検証するとともに、事業担当だけでなく、班内での情報共有をはかるため、定期的に事業の進捗状況について詳細な報告を行い、情報共有を行った。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

状況説明	南城市サキタリ洞遺跡において発見された更新世(約2万年前)の人骨と貝器を公表した。本事業では、H24年度に公表した1万4千年前の人骨と石器と合わせて、2カ年で2件の更新世(≒旧石器時代)人骨について公表した。
------	--

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

・昨年度に引き続き、H25年度の調査研究においても、想定を上回る重要な発見があったため、成果の公表までに必要な調査研究に時間を要すること、またその内容をより拡充して実施すべきことが、引き続き推進上の留意点となっている。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・調査研究成果の迅速な公表が課題としてあげられるが、出土品の年代測定や分析、評価には専門的な知識・技術と時間を要する。拙速な公表は誤認や不正確な情報発信につながるため、慎重かつ正確な情報発信が必要であり、専門スタッフの増員をすることにより、発見から公表までの時間短縮、公表内容の充実を図る必要がある。

・調査成果について、博物館内の展示や新聞報道だけでなく、インターネットや各種メディアを通じた組織的な情報発信を実施することによって、より効果的な調査成果の普及をはかっていく必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・より充実した調査を実施し、正確な情報発信を行うため、発掘調査を平成27年度まで延長して実施する。また、調査成果に関して、拙速な公表は誤認や不正確な情報発信につながるため、成果に関する情報管理をより徹底して行う。

・調査成果をインターネット上でも普及するため、情報発信用のコンテンツの作成を行う。